

豊かな授業づくりに学校図書館を！

授業に使うための資料がほしい

〇〇についての最新データがほしい

学校図書館の使い方指導をしてください

修学旅行に関連した資料を集めてください

郷土の資料がほしい

A作家の作品一覧ブックリストがほしい

新聞の作り方の資料はありますか

この町の災害対策を知りたい

こんな時は ぜひ相談を！

〇〇についてのブックトークをしてください

学校図書館は待っています

世界の国調べのためいろいろな国の資料がほしい

パスファインダーを作ってください

Webサイトのリンク集を作してほしい

探究的な学習をT2で支援してください

グラフの授業をするので統計資料を集めてほしい

著作権の指導をしてください

各自がテーマを絞るにはどんな手法はありますか

情報収集の方法や検索のキーワードの入れ方などを教えてもらえますか

整理・分析のための思考ツールを教えてください

引用や参考文献の書き方を児童生徒が端末から確認できるようにできますか

レポートの書き方の例はありますか

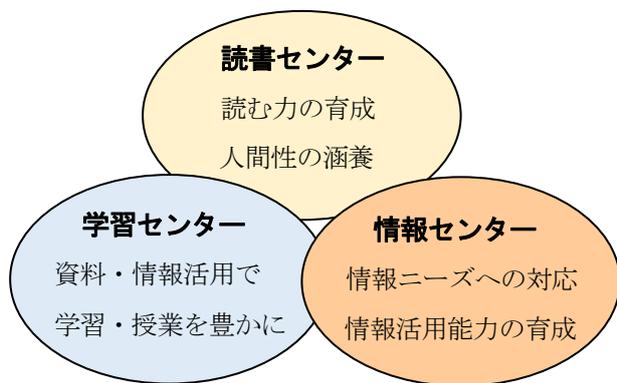
印刷資料もデジタル資料も、郷土資料も、公共図書館や博物館等との連携も
学校図書館は、さまざまなニーズにお応えします



1 学校図書館は学校教育のインフラ

学校図書館には3つの機能があります

学校図書館には、「読書センター」「学習センター」「情報センター」の3つの機能で授業に役立つ資料提供と学習支援を担います。図書室ではなく「図書館」です。そして、「館長」は校長です。



学校図書館法には…

目的 教育課程の展開に寄与すること
児童生徒の健全な教養の育成

利用者 児童生徒・教員

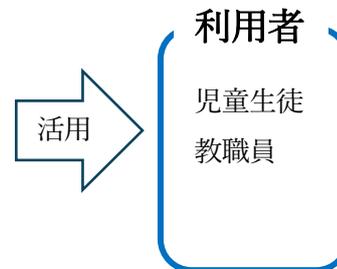
学校図書館活用で授業改善を

学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童（生徒）の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童（生徒）の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実すること。学習指導要領（総則3-（7））

アナログもデジタルも学校図書館で扱います

学校図書館資料

・図書 ・新聞 ・雑誌 ・郷土資料 ・パンフレット
・リーフレット ・地図 ・切り抜きファイル ・ポスター
・紙芝居 ・DVD・CDなどの音楽・映像などの視聴覚資料
・インターネットのようなネットワーク情報資料
・新聞や百科事典などのデータベース ・バリアフリー資料
・研究紀要 ・ワークシート
・実物資料 ・ファイル資料 ・学習成果物（学習で作成した児童生徒の作品） など



学校図書館の資料は分類順に並んでいます

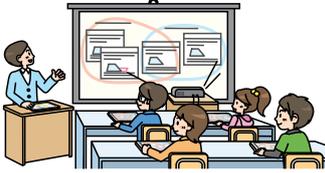
どの教科の授業でも使えるような、蔵書割合が必要です。

分類	0 総記	1 哲学	2 歴史	3 社会科学	4 自然科学	5 技術	6 産業	7 芸術	8 言語	9 文学	合計
小学校	6	3	16	10	16	6	5	8	5	25	100%
中学校	6	5	16	10	15	6	5	8	4	23	100%
高等学校	7	7	16	12	14	6	4	8	7	19	100%

全国学校図書館協議会作成（学校図書館メディア基準/印刷メディア・蔵書の配分比率より）



2 発達段階を考慮した情報活用を



いろいろな資料・情報を使い、
主体的に学びながら
情報活用能力を伸ばします

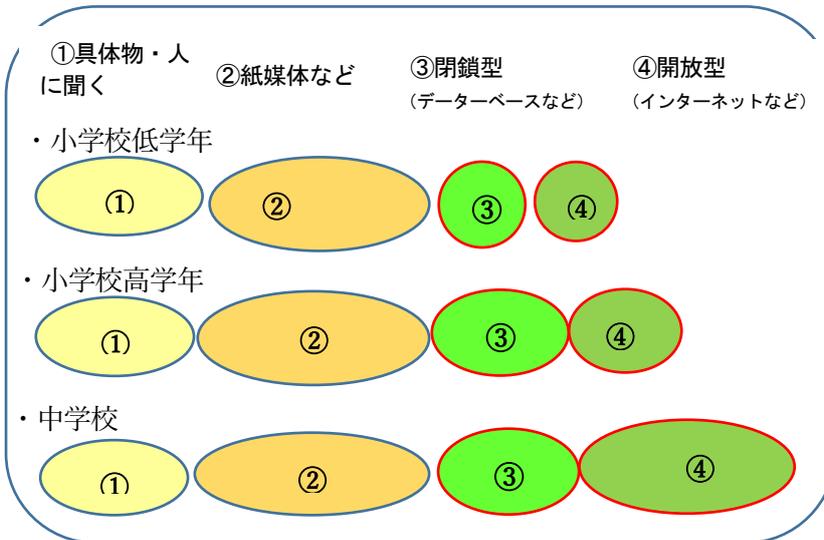


発達段階に考慮しながら、授業で多様な資料・情報に接し、様々な体験をさせていきます。そして、主体的に学びを深めていく中で、児童生徒自らが、テーマによって適切な資料・情報を探し、選択し、利用できる体験を積み重ねていきます。つまり、テーマによって、児童生徒自身がそれぞれの資料情報（紙媒体か、デジタル媒体か）のメリット・デメリットを理解し、使い分けができていくように育てていくことが重要です。

例えば、下記のように段階を経てアナログからデジタルへ情報の入手先を増やしていくこともできます。

アナログ	① 具体物 人に聞く	体験・人からの情報入手 聞き取り・アンケートなど
	② 紙媒体 など	紙などの媒体 図書・雑誌・新聞・パンフレット リーフレット・・・など
デジタル	③ 閉鎖型	事典・新聞データベース 内容によって、検索のしかた キーワードの入れ方などが違う。
	④ 開放型	インターネット 信頼できるものを選んで使う。

- ・アナログでも、デジタルでも情報の入手先を明確にしていくことが必要です。
- ・情報の信頼性の確認が重要です。
- ・情報の提供、情報の扱い方等の指導など学校図書館がサポートします。
- ・ICT教育、生徒指導、道徳、学校図書館教育等の担当者との協力し合い、学習年間指導計画にどこで学校図書館を活用するのかを明確にしておきます。

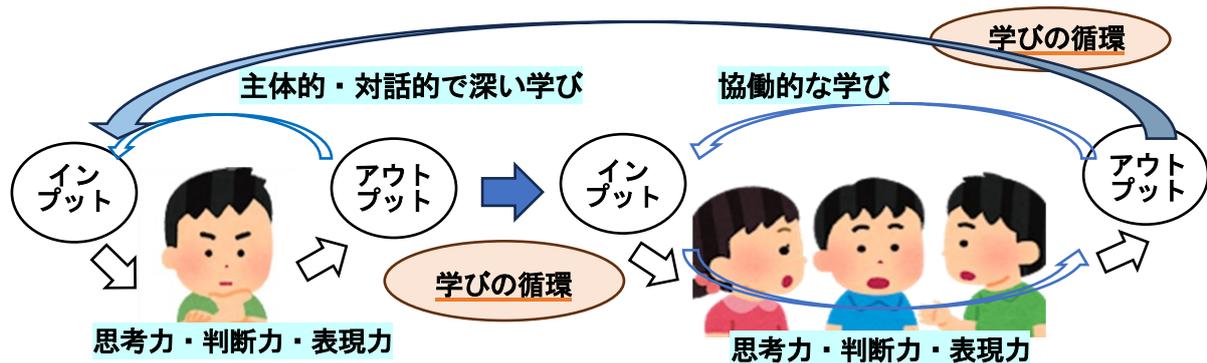




3 資料・情報を利用して学びを深めよう

読書活動でも教科活動でも資料・情報を活用しましょう

資料・情報の活用は「インプット」と「アウトプット」の学びの循環を生みだします



●情報のインプットとアウトプットの循環は、思考力・判断力・表現力を高め、「自ら学ぶ力」を醸成し、主体的・対話的で深い学びや協働的な学びを実現させます。

●学校教育においては、児童生徒の発達段階や学習のねらい等によって、印刷やデジタル等の各種メディアを意図的に利用させながら、その特性を知り、使い分けの力を培います。

●印刷とデジタルの資料・情報の活用について、例えば、百科事典は紙のものもデジタルのものも使わせるなど、基本的指導について全校で共通に認識している学校もあります。

全教科に共通な学習の基盤となる情報活用スキルの

指導や支援は司書教諭や学校司書に依頼できます

●「読む力」や「情報活用能力」という学習の基盤となる力を全学年を通じて段階的・系統的に育成するために、教科横断的な指導計画を作成している学校図書館があります。

●例えば右図のようなスキルを「いつ」「どの教科」の「どの単元で」段階的に指導するかを、統合的に示したものです。

●これらのスキルは繰り返し学習して身につけていくものです。

●これらの情報活用スキルの指導・支援を司書教諭や学校司書に依頼したり、TTで授業に入ってもらったりすることができます。

＜情報活用スキルの例＞

- ・テーマの設定方法
- ・調べ方の選択
- ・図鑑・年鑑等の使い方
- ・Web 検索の仕方
- ・Web ページの評価の仕方
- ・抜書き・要約・引用の方法
- ・情報カードの書き方
- ・思考ツールの使い方
- ・新聞の見方・作り方
- ・レポートの書き方
- ・パワーポイントの作り方
- ・発表、評価の方法
- ・学習プロセスと成果の評価



4 特別な支援を要する子どもたちにも豊かな学びを

すべての児童生徒が、自分にあった手段で、本を読んだり情報を得たりすることが必要です。特別支援学校だけではなく、学校によっては特別支援学級もあります。さらに通常の学級にも学習や行動に困難のある発達障害の可能性のある児童生徒が8.8%存在するとの文部科学省（2022年）の発表もあります。学校図書館は、一人ひとりの読書や情報獲得の困難から生じてくる必要性に応じて、特別なメディアや支援を適切に提供していきます。

子ども達の読みにくさ、読みの困難に応じて、対応をしていきましょう

まずは、読むための補助具、リーディングトラッカーやリーディングルーベを使ってみましょう。特別な障害がない児童生徒にも、集中して読むために効果的です。

① リーディングトラッカー

本文の上に重ねることで、上下の文書が隠され、読みたい1行だけが透過して見え、視点を集中させて読むことができます

② リーディングルーベ

リーディングトラッカーと同様に使え、文字が拡大されます。

③ DAISY 図書 (Digital Accessible Information System とよばれるアクセシブルな情報システムの略称)

- ・音声 DAISY (録音図書) : 図写真の説明も目次やページ情報もあります。音声の速さの変更も可能です。
- ・マルチメディア DAISY 図書 : 文字や画像をハイライトしながら、その部分の音声と一緒に読むことができます。文字の大きさや背景の色も変えることが可能です。
- ・マルチメディア DAISY 教科書もあります。

通常の教科書と同様のテキスト、画像を使用し、音声と一緒に読むことができます。

障害に応じてさまざまな資料があります。特にディスレクシアの児童生徒（一般的に理解能力に遅れがない場合でもや文字の読み書きに限定した困難がある状態の児童生徒）への対処です。

- ・文字のフォントを大きくわかりやすくする
- ・余計な文字を隠す
- ・声に出して勉強する
- ・文の区切りに/を引く
- ・タブレット端末を使う
- 等の方法があります。

さらに、外国にルーツをもった児童生徒への配慮も必要です。

④ 多言語電子絵本

日本の絵本や海外の昔話などをさまざまな外国語に翻訳した電子絵本が活用できます。



まずは学校図書館に
相談してくださいね





5 「司書教諭」と「学校司書」の働きと役割

「司書教諭」は情報活用指導のプロ！！

「司書教諭」は、教育委員会や学校長より、発令された教諭、学校図書館の経営を担います。教員が多様な学校図書館資料を適切に活用したり、探究型学習や教科横断型の授業を実践したりするのを支援します。児童生徒が情報資源を活用し、変化する社会に対応できる学びの力を培えるよう学校図書館の3機能を充実させます。

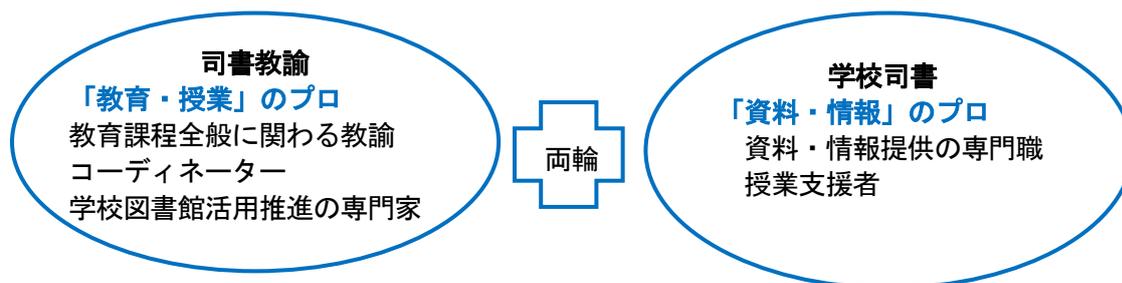
「学校司書」は資料・情報のプロ！！

「学校司書」は資料や情報を収集しわかりやすく提供します。図書館資料を活用した授業支援や関連のブックリスト・パスファインダー等を作成します。日常の読書活動のアドバイスや図書館資料・設備・実物資料等の維持管理をします。

「学校図書館主任」とは

司書教諭のほか「図書館主任」もあります。学校図書館教育部の代表者として、司書教諭や学校司書と協働し実務を担当します。司書教諭が図書館主任を兼ねることもあります。

**司書教諭と学校司書の役割について全教職員が理解し、
授業での協働、連携を深めましょう！**



- ・学校図書館経営・運営
- ・教育活動の企画・実施・連絡調整
- ・年間読書指導計画の立案
- ・年間情報活用指導計画の立案
- ・学校図書館を活用した授業の実施と他教員への助言

- ・学校図書館運営の専門的・技術職の遂行
- ・学校図書館を活用する授業に司書教諭と共に支援
- ・教育（教科・特別活動・利用指導）への支援
- ・児童生徒教員への閲覧・貸出等
- ・蔵書の収集・管理、施設・設備の整備

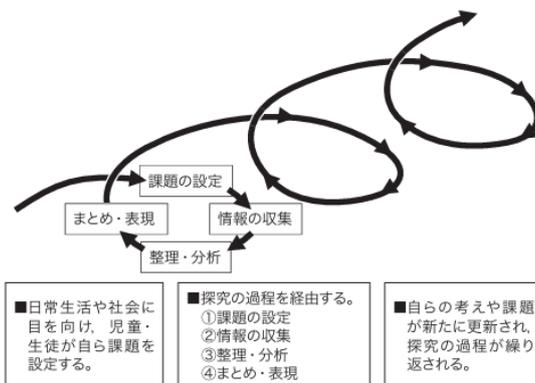


6 学校図書館は探究学習の強い味方

もともと学校図書館では本の探し方や著作権、レポートでの引用の書き方などの指導をしてきました。端末の活用でデジタル情報が増えても、情報の指導に変わりはありません。本だけでなく、司書教諭や学校司書は情報の扱いの専門家なのです。

課題の設定 本当に調べたいこと・知りたいことを見つける手法も提案できます。

情報の収集 本の探し方だけでなく、Webサイトや体験施設などの相談も。パスファインダーで調べ方の提示や、Webサイトの検索のキーワードの入れ方なども支援できます。



探究的な学習における生徒の学習の姿

(文部科学省「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」より)

思考ツール 課題の設定や整理・分析などの便利なツールも提案できます。

整理・分析 全体の構成や説得力を増すための方法なども相談できます。

著作権、引用 学校図書館は図書資料の著作権だけでなくデジタル情報やインタビューなども含めた指導をしています。レポートでの引用の書き方などもすべての教科に必要なことです。

他にもいろいろお手伝いできます。ぜひ相談を。

※思考ツール

批判的複合的に考えるために、整理してわかりやすい形で表現するための道具（ツール）。

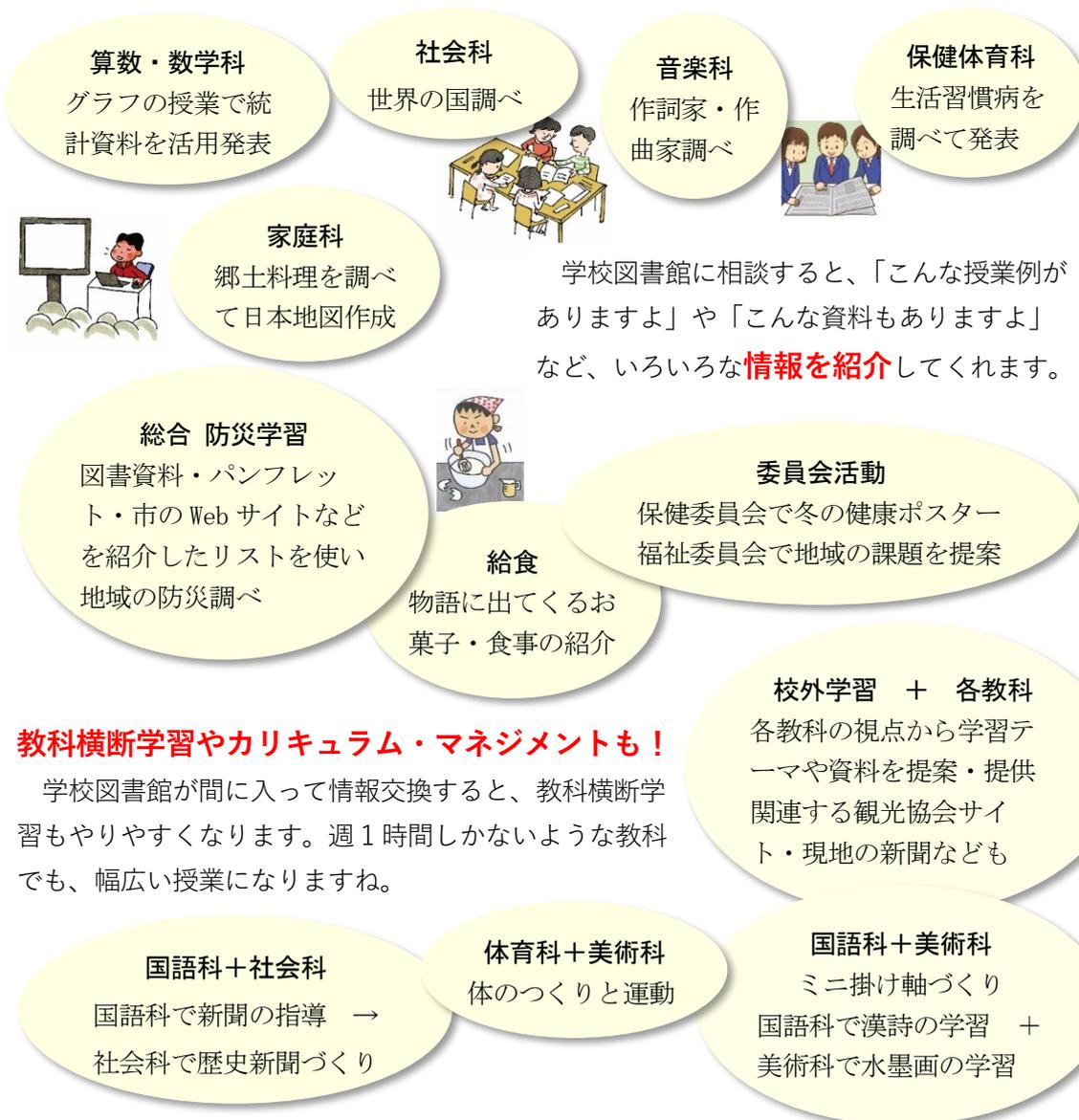
※パスファインダー

パスファインダーとは、path（道）finder（見つける人）の意味で、ある特定のテーマについて調べる時に、基本的な図書資料や情報源（図書・雑誌・Web情報など）を簡単に紹介した道しるべ役の情報資料です。学校図書館で作成して教員・児童生徒に提供します。



7 学校図書館はどんな教科で使われている？

学校図書館の活用というと国語や社会、総合などを思い浮かべることが多いと思いますが、**どんな教科でも、また特別活動などでも**使っています。ここで例にあげた教科や、委員会・給食だけでなく、もっともっと可能性が広がります。



学校図書館に相談すると、「こんな授業例がありますよ」や「こんな資料もありますよ」など、いろいろな**情報を紹介**してくれます。

教科横断学習やカリキュラム・マネジメントも！

学校図書館が間に入って情報交換すると、教科横断学習もやりやすくなります。週1時間しかないような教科でも、幅広い授業になりますね。

授業者1人では大変…

学校図書館は探究学習の強い味方です！

司書教諭や学校司書は**情報の扱いの専門家**。とにかく一度**相談してみましょう**。

計画的に取り組まれた実践例の紹介①(情報活用授業コンクール受賞校実践)

作成中

計画的に取り組まれた実践例の紹介②(情報活用授業コンクール受賞校実践)

作成中

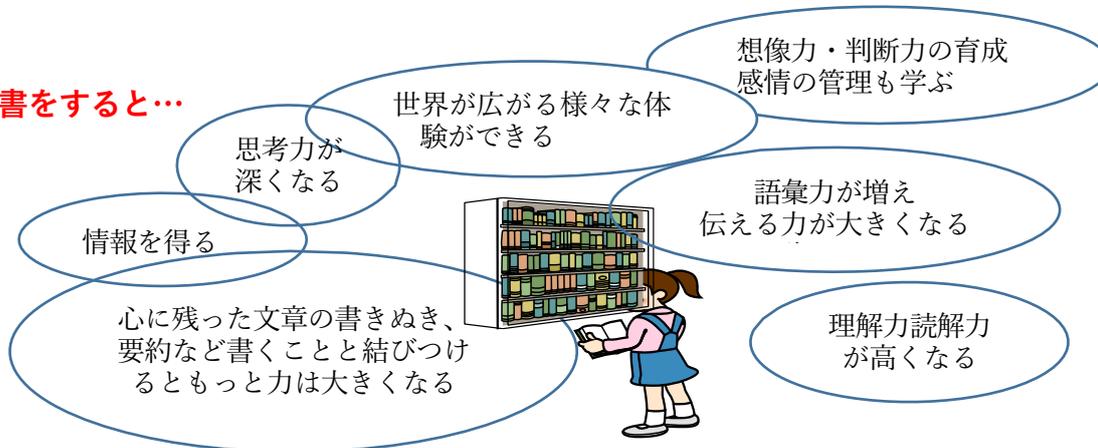
計画的に取り組まれた実践例の紹介③ (情報活用授業コンクール受賞校実践)

作成中



8 AI時代でも 土台は言語能力・読解力

読書をするすると...



AIの急速な発展の中で、人間の強みを発揮するための基盤が言語能力であり、読解力です。年齢に応じて語彙を増やし、想像力、論理的思考力、表現力等を伸ばしていくことが重要です。情報を活用するにも言語能力が基盤です。今、言語能力の育成は最大の課題です。全教科・全教育活動を通じて、言語能力育成に取り組む必要があります。学校図書館を核にしながら、全職員で言語能力の育成をしていきます。

「電子書籍」、でも、考慮しましょう発達段階！

深い思考は紙だからこそです。紙には操作性があり、視覚、触覚、聴覚等の刺激が記憶にも影響をあたえます



子どもたちが、将来、紙とデジタルと使い分けができるように学齢が低いうちは紙の経験を十分させましょう。そして、読む力も、思考力もつけられるようにしていきましょう

デジタルの使い過ぎは健康によくないという調査結果もあります。重要性が増しているのが、コンピュータービジョン症候群による目への不調への対策です。

使い分けよう デジタルと紙の本

脳科学者・認知科学者たちは「紙の方が読み取り、考える力、記憶力等において勝る。

紙で読むと、より記憶に残りやすく深くまで洞察する力が身に付く。デジタルでは脳が今見ているスクリーンの影響を受け記憶に残りづらく、深く洞察できず集中力も妨げられる。斜め読み飛ばし読みが当たり前になり、文章の細部まで読み取る能力が低下する」と表明しています。デジタルの長時間使用は健康上も問題があります。

発達段階や課題を考慮しながら、取り組んでいきましょう。